

第 19 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 27 年 11 月 5 日(木)
午後 1 時 25 分～午後 3 時 7 分

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員（敬称略）：住田篤美・大西喜久子・藤江敏子・小林幸子・
松田葉子・櫻田恭一・小椋あけみ・和田季子・
中嶋紀恵・田中俊行・祝部大輔・吉居 努

欠席者：野田親弘

米子市水道局：中原水道事業管理者・八幡副局長兼計画課長・
星野次長兼浄水課長・松田次長兼給水維持課
長・金田総務課長・松田営業課長・森井水質管
理課長・松前施設課長・安村境港営業所長・住
田主査兼施設課改良係長・本池主査兼浄水課水
源管理係長・湯崎総務課長補佐兼会計係長・山
内総務課主任・木村計画課主任・事務局

○日程

1 議題

(1) 平成 26 年度米子市水道事業会計決算状況について

(2) 配水池設置事業の進捗状況について

(3) 庁舎建設事業の概要について

2 事務連絡

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係者を除く）
なし

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先
米子市水道局計画課企画調査係（TEL. 0859-32-6112）

1 議題（議題の概要及び質疑）

（1）平成 26 年度米子市水道事業会計決算状況について

＜案件説明：湯崎総務課長補佐兼会計係長＞

地方公営企業会計制度の変更と会計基準の見直しについて

地方公営企業会計制度の変更と会計基準を見直す目的と、その背景と経緯について説明。加えて見直される要点について説明。

この度の平成 26 年度分が、見直し適用後初めての決算となる。

収益的収支の決算について

水道料金収入とその他の収入、及び支出について説明。

9 億円の特別損失は平成 26 年度のみ発生する費用である。

資本的収支の決算について

収入総額約 12 億 6,800 万円の内訳は、企業債約 11 億円、工事負担金約 9,600 万円、補助金が約 6,400 万円。

支出は総額約 25 億 2,500 万円で、建設改良費約 17 億円、企業債償還金約 8 億円。従って資本的収支不足額は 12 億 5,700 万円。

減価償却費・繰越利益剰余金・前年度からの繰越工事資金で補っている。その結果補てん後の残高は、繰越利益剰余金として約 9 億 6,600 万円。

平成 26 年度は数字上損失が生じているため、その他積立金は行っていない。

業務の状況について

給水人口は減少したが、給水戸数はアパートの新築等により若干の増となった。

配水量・給水量・一日最大配水量についても少しずつ減っているのが現状である。

経営状況について

前年度と比較して、収益全体では制度変更に伴うものを除いて、約 3,562 万円の減となった。

会計制度変更に伴い支出も約 1,300 万円減少した。

最終的に当年度の純利益として、前年度比約 2,250 万円減の 4,600 万円。ここ 3 年間はほぼ同じ程度の額の純利益が出ている。

資本的収入及び支出について

3 年間を比較すると、平成 25・26 年度は大きな事業をしているため平成 24 年度と比べ企業債が増えている。平成 26 年度は約 11 億円。

支出についても配水池設置事業に伴い、建設改良費は平成 26 年度で約 17 億円となった。企業債償還金については少しずつ減少傾向にある。

利益剰余金の推移について

将来の企業債の償還に充てる減債積立金は、平成 26 年度は積立っていないため前年度と変わらず 1 億 1,910 万円。水源かん養林取得用として積立金を約 2,900 万円。

繰越利益剰余金は、前年比で 2 億 5,000 万円減の約 9 億 6,500 万円。

企業債残高の推移について

現状で約 104 億円の残高となっている。

公営企業に係る経営比較分析について

給水人口が 15 万人以上 30 万人未満で、地下水・伏流水等を主な水源とする類似団体の平均値と本市を比較。

質疑応答

【住田委員】 ご説明いただきましたが、お分かりになりましたでしょうか。ご質問がありましたらどうぞ。

【祝部委員】 7 ページの⑩⑪についてですが、この数字は悪いということですか。

【湯崎補佐】 類似団体の数字がまだ出ていませんが、経年化の状況については類似団体とほぼ同じ程度だと認識しております。

【祝部委員】 ⑪は管路の更新率ですが、0.68%と 1%に満たない数字ですので更新率が悪いのではないかと思います。

【金田課長】 これは今埋設してある管が全て取替えが必要であるかと言えば、そうではありません。計画的に優先順位を付けて更新を進めていきます。替えたい箇所はすぐにでも替えたいとの思いはありますが、財政面と優先順位を照らし合わせながら、年次的に更新を進めていっております。

【湯崎補佐】⑩の管路経年化率は全国平均値が 8.5%ですので、米子市は若干悪い数字になります。⑪の管路更新率は全国平均が 0.77%で、当市はほぼ全国平均と同じ数字になっております。

【大西委員】安全な水を安定して供給する事を基本に、計画を進めていただいているとの認識でよろしいでしょうか。

【八幡副局長】そのとおりです。毎年 10～14km 程度は更新しております。法定耐用年数という法律で決められている年数があるのですが、管の耐用年数は事業体で独自に設定して良いことになっております。アセットマネジメント委員会で独自に耐用年数を設けており、その中で優先順位を決めて更新をしています。

【松田次長】管路の中でも一番脆い管種であるのが、石綿管とねずみ鋳鉄管です。具体的な数字を挙げますと、総延長 1,300km の内石綿管の残存が 198m とほぼなくなって来ております。ねずみ鋳鉄管は現状で 2,640m 残っております。

ただ市街地部分や幹線道路に埋設してあるとか、道路工事に合わせて更新する時期を見計らっているなどの理由で、簡単に工事ができない箇所が残っている状況ですが、順調に更新を進めていると考えております。

【住田委員】残っている石綿管について、安全面ではどうですか。

【松田次長】残存の石綿管は法定耐用年数はとうに超過していますので、大変危ないと感じています。そのため月に一回程度で漏水調査をして、道路が破損する様な大きな破損にならないために、調査の頻度を上げて早い段階で修繕する様に対応しています。

【住田委員】いずれにしても爆弾を抱えている様なもんだね。他にありませんか。

【吉居委員】退職金について、積立て制度になったということですが、企業として積立てるのか個人の給料から積立てるのかどういったやり方をされるのでしょうか。

【湯崎補佐】退職給付引当金という言葉になります。簡単に言えば全職

員が退職した場合に支払わなければならない金額を、企業として必ず持つておきなさいということです。将来的にそれだけの負債を抱えているとの考え方ですので、今の内に支給すべき金額を引当金として計上する様に義務付けられました。これは将来に対するコストを必ず計上して、企業の現状を把握した上で経営判断をなささいということです。

【吉居委員】現在 60 歳で勇退という定年制度がありますが、生活の糧である給料がなくなる訳ですから、公的年金が支給される 65 歳までの 5 年間でどうやって飯を食っていくのか個人でも考えなければなりません。そこで関連企業に就職すると、天下りだと言われる様な、おかしなシステムが生まれて来ている。民間企業はそうじゃないですからね。能力のある人はいくらでも勤められますから。そうでないと長年技術屋として事務屋として、培ってこられた知恵・技術が一挙に失われます。

私は人間として今の制度は非常にナンセンスだと思っています。

今資料を説明してもらいましたが、ジリ貧ですわ、はっきり言って。やるとすれば料金の値上げしかないですわ。

私も前回お話したんですが、民間企業を誘致してきたら、付加価値を付けて原水を売ることが出来ます。水道水はいくら、原水はいくらという風に。一体本当に米子の水道局には、ナンボの水がめがあるのか、ナンボの水を売ることが出来るのかということです。水は全国でも素晴らしい水がある訳ですから、水に付加価値を付けることです。以上です。

【八幡副局長】答えになるかどうか分かりませんが、この数字を見られて先がない、殺伐としていると言う様な、悲観するものではないと思っております。

ご承知のとおり平成 29 年度迄は水道ビジョンで基本計画を立てております。そして現在平成 30 年度から 39 年度迄の新たな基本計画を策定中です。我々の使命は清浄・低廉で豊富な水を安定供給することに尽きます。ですから水の付加価値と仰る意味は分かりますが、実は水は共有財産でございまして、水道局が水道のために独り占めすることはできません。以前ご報告したとおり、淀江地区で農業用の井戸に影響が出るとの理由で、水源開発を断念した経緯があります。

水という誰の物でもない共有財産は、皆で守っていかなければならないので、更に良い事業運営ができる様、皆様から良いお知恵を拝借したいと思っております。

【吉居委員】松田次長、石綿管という悪い管がある訳ですね、たった 200m 弱ですよ。単独で工事が難しい箇所、道路の改修工事がある時に更新をするやり方では、その管の水を飲んでいる市民の方はどんな思いがするのでしょうか。同じ料金を支払っているながら、我々の体に悪い水を飲まされておったと思われるでしょう。だから金は儲けなければならないんです。綺麗ごとでは通用せん時代が必ず来ます、必ず。以上。

【八幡副局長】なかなか更新できない箇所についても現地調査もして、色々計画を立てております。石綿管もそうすぐに壊れることはありません。加えて石綿管の中を流れている水も、水質が悪化している訳ではありません。石綿管は切った時の粉塵が有害で、通常流れている水には何の問題もございません。また鉛管についても、溶出した時が問題になります。給水維持課長が申し上げたとおりに、なるべく早く更新ができる様に策を練っておりますので、今しばらくお待ちください。

【吉居委員】金田課長、退職して 5 年間は生活の糧となる年金が貰えない訳です。そこで、生活保護の人が大体月 15 万円給付されているので年間約 200 万円、これの 5 年分の 1,000 万円を退職金に上乗せしてはどうですか。

【中原管理者】数年前に定年延長が議論されましたが、その当時は時期尚早とのことで、現状でも定年退職は 60 歳となっております。年金支給開始年齢が段階的に 65 歳に上がっていく中で、60 歳で定年退職して 65 歳までの再雇用・再任用を職員が希望すれば、事業主は雇わなくてはならない時代です。昨年度退職されて、ある方は民間に行かれたり、再任用で残っておられる方も実際におられます。色々な選択肢がございますので、5 年間全く収入がなくなるということではないと思います。

退職金の割増という大変有難いご提案をさせていただきましたが、申し上げた様な理由で難しいと考えております。

【住田委員】よろしいですか。はい、大変分かり易くご説明いただき

ました。

私は監査委員も務めておりますので述べさせていただきます。類似団体と比較されていますが、米子市水道局は少し生産性が低過ぎるのではと思う部分があるんです。水道局の皆さんのお仕事として一番大切なのは、安全な水を安定して市民の皆さんに常に供給することです。それを脅かす様な形で効率性を高めるのは、決してプラスにはならないと思います。ただ類似団体と比べて、生産性が低い原因をきちんと分析なさって、効率性が改善する様努力されれば良いと思います。

私が見た限りでは、平成 26 年度の決算はね、良くやってくれましたという印象を持っています。と言うのは平成 26 年は厳しい年で、天候不順もあって、特に 7・8 月辺りは給水量がもの凄く落ち込んでしまうという大変な状況でした。そんな中で経費節減等の努力をなさって、例年と変らない実質的な収益をあげられています。

かねがね水道局職員の皆さんそれぞれが、コスト意識を持って仕事をしておられるのが結果となったんだと思います。悪い時こそ皆で知恵を出し合って、少しでもコストの削減にチャレンジして行かれば、何とか乗り切っていただけと考えております。

(2) 配水池設置事業の進捗状況について

＜案件説明：松前施設課長＞

前回の審議会で順調な工事の推移をご報告し、平成 28 年 3 月に工事の終了、6 月供用開始とご説明させていただきました。周辺の工事はほぼ終わっております。ただ進入路が一箇所しかない山の上の工事現場で、作業スペースの関係上数種類の工事が同時進行できませんので、調整した結果工期を約半年延長したことをご報告させていただきます。

造成工事について

資料の 1 ページに着手前と現況の写真を載せております。

大きな造成工事は終っており、現況も完成イメージと同じ様になって来ました。2 ページの一番上は埋蔵文化財の発掘調査の状況の写真です。造成工事は伐採に始まり、雨水洪水調節池、切土・盛土、道路の工事等を行い、現在 3 ページの中央配水池設置面・南部配水池設置面まで終わった時点で休止しております。

配水池建設工事について

4 ページの最初、中央配水池の形となるベースは既に出来上がっております。基礎を打ち底板と一部分横板を立てた 4 ページの下段の状態で中央部を離れて、5 ページの南部配水池へ移ります。

基礎、横板、内部もほぼ組み上がり、現在内部補強を行っております。屋根を貼った後にシートを外し、今月末には全景が見えて来るのではないかと考えております。

水管橋建設工事について

吊り上げる状況と完成写真を載せております。まだ通水はしておりませんが、工事は今年の 7 月 31 日で完成しております。

送配水管布設工事について

戸上水源地から新配水地まで、新配水地から車尾水源地場内駐車場まで分岐と配管を、耐震管の口径 400mm から 1000mm で布設しております。管理道路での接続工事、斜面の配管の工事を発注をしております。配管の工事は今年度中に完了予定としております。

今後の予定について

今後の予定としましては、南部配水池は今年 12 月中に工事を終わり、年明けから中央部配水池の工事に入ります。今のところでは 7 月頃に配水池本体の組上げが完了する予定です。その後に電気・計装、場内の洗浄等を済ませて、10 月頃から試運転に入りまして、11 月頃から運用できる様に進めております。

土木工事を 11 月から再開し、側溝・フェンス・舗装工事などの工事を完了させて、平成 28 年 12 月末で完了したいと考えております。

配水池設置事業については、以上の様にご報告させていただきます。

(3) 庁舎建設事業の概要について

＜案件説明：松前施設課長＞

引き続き庁舎建設についてご説明させていただきます。

資料「庁舎建設事業」にて説明

質疑応答

【住田委員】ありがとうございました。

配水池の進捗状況、それから新庁舎の事業計画について、何かお聞きになりたい事はございませんか。

【祝部委員】配水池の方の 4 ページで、基礎コンクリートは長さほどの位ですか。

【松前課長】形が凸形になっておりまして、縦の長い方が約 46m 横 53m になると思います。高さは約 7m です。

【藤江委員】今日水道局に来る途中で、米子信用金庫の北支店が新しく木材を使って素敵な外観になっていました。水道局の新庁舎は鉄筋コンクリート建てとのことですが、内装などに地元産の建材を使う計画はありませんか。

【松前課長】床材とか壁材に関しては、できるだけ地元材を使うことを考えております。ちょっと高いと思いますが。

【藤江委員】日南町の方も直接は関係ないけれども、米子市の水道局庁舎が新しくなるということで、多分色々注目しておられるんじゃないかと思います。

【松前課長】基本設計の中でも、地元材の使用を謳っておりますので、積極的に使っていこうと考えております。

【田中委員】庁舎建設の概要に、資材・倉庫棟とあります。今後資材は増えていく方向にあるのではないかと思います。将来的なスペースの余裕はあるんでしょうか。

【松前課長】実は現在貯蔵している災害用の資材なども、減ってきております。管路の説明にもありました様に、鑄鉄管等に代わって来て本管の破損はかなり減っておりますので、保管している修繕用の材料も少なくなって来ております。水道局から払い出す蛇口なども、数が減っておりますので、今後増えるという想定はあまりしておりません。

【田中委員】まだ建てることのできるスペースが残っている様に思ったものですから。

【松前課長】上の方にあります深井戸 2 号の点検のために、右側から車両が回り込める様にスペースを空けております。

【吉居委員】新配水池は管も含めて、震度どの位の地震まで耐えられ

る設計になっていますか。

【松前課長】耐震設計に用います地震の揺れの大きさに、地震動レベルに1と2があります。地震動レベル2に相当する大きい地震が来ても、直接被害を受けない、壊れない耐震性を確保した設計をしています。

【松田次長】地震動レベル2に対応する耐震管は、震度6強でも大丈夫だと思ってください。

【吉居委員】それから新庁舎ですが、大型バスも入れますな。

【松前課長】大型バスやトラックの、最大で12mの車両が旋回できる計算はしております。

【吉居委員】進入路が比較的狭いですが、古地井出川には幅何mの橋を架けられますか。

【松前課長】ボックスカルバートで約6mです。

【吉居委員】県道から下りてくる米子境港自転車道線など含めて、将来的な道路計画の中で環境整備をされた方が私は良いと思います。まっ、これは地元から要望を出した方がいいかも知れませんか。

それから水道局庁舎が新しくなるので、医療センターが制服を新しくされたのに倣ってみてはどうですか。

それと更衣室が1階と2階にありますが、炎天下で仕事をされて外から汗だくで帰ってこられる訳ですからシャワー室があって良いと思いますがどうでしょう。

【松前課長】ありますが、細かく全部書いてはおりません。

【吉居委員】これから女性の方もどんどん進出して、活躍してもらわなければなりません。女性の現場監督もできるかも知れませんが、男女のシャワー室位は完備していただきたい。

市議員がおかしな事を言えば、ワシがモノを言いますから、本当ですよ。

【松前課長】庁舎建設に当たっては、水道局職員で組織した庁舎建設検討委員会で、全職員の意見を聞きながら進めて行きたいと思っております。

【住田委員】他に事務局からございませんか。

2 事務連絡

【事務局】次回の開催は、2月を予定しております。平成28年度の当初予算案についてご審議をいただき、配水池と新庁舎建設についても、ご報告させていただく予定です。

本日は閉会の前に皆様にお知らせがございます。少々お時間を頂きまして、副局長八幡勇治がご報告いたします。

【八幡副局長】今月末日が皆様の任期満了日でございます。従いまして本日が最後という方もいらっしゃると思います。今回退任されますのが、席次順に松田委員、藤江委員、大西委員、小林委員、櫻田委員、それに本日ご欠席の野田委員の6名です。

大西委員と藤江委員は審議会発足当初から10年間、大変長らくお世話になりました。

小林委員につきましては4期と1年、松田委員も4期お務めを頂きました。

櫻田委員は2期ということで、まだまだお願いしたかったのですが、御意向が固い様ですので承諾をさせて頂きました。

皆様大変お世話になりました。我々が普段忘れかけている様な事も思い出させて頂き、時には叱咤激励も頂きました。

今後は水道事業審議委員の経験者である御意見番として、引き続き御指導くださればと思います。

退任されます皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

退任委員挨拶

大西委員・小林委員・櫻田委員・松田委員・藤江委員

【住田委員】これで本日の審議会は閉会とさせていただきます。